

初等部

「よくみる」からはじまる表現

山下 美記

授業の延長線上である美術展。その集大成を発表したいと毎回の授業を活発に行い、この4年間着実に積み重ねてきた。まず第一番目に、普段の子ども達の息吹や躍動感を伝えられるようにしたいと考えた。キャンパスの四季折々豊かな自然環境、初等部の本物からの学びや活動、全てがテーマとなり制作している。多種多様な素材を用い、思う存分表現できるようにとタイミングを逃さず取り組むようにしてきた。会場は、「自然」「動物」「生活」「デザイン」の4つのブースに区切り工夫して展示できるように計画した。更に制作意欲を掻き立てたいと2つの特別勉強も企画した。6年生はインスタレーションの新しい試みにも挑戦し、初等部の美術を紹介した映像と共に発表した。子ども達は美術の授業が大好きだ。何よりも子ども達にとって、この先の授業に繋がる意義ある美術展にしたいと切に願い発表できるようにと心がけた。

I. はじめに

自由学園美術教育の特徴の一つとして専門家に学べるということが挙げられる。初等部でも講師、専科を含め4人の指導者がいる。その美術陣と教師陣の結束が強く、子ども達にとって美術での表現は、物事を理解する上にも学級経営の上にも欠かせないものとなっている。こうした基盤が、美術を活発に行える要因だ。だから初等部の美術は「生活」と共存できる。昨年度末の3月にはそのことを再確認して、学校生活の目標も「気持ちよく力を出す」に決めた。制作にも生活面にも力を出してよくしていき、初等部中で美術展へと向かった。

子ども達は大喜びだ。貝を観察しているからこそ面白い造形が生まれてくる。貝を好きなものに重ねて自由に発想して表現の幅がどんどん広がっていくことに驚いた。子ども達にとっていつもとは違う視点での制作は大変新鮮だったようだ。



4年生の作品



3年生登坂氏による指導

II. 美術展までの特別勉強

1. 登坂秀雄氏(彫刻家)によるテラコッタ指導

6月9日 3・4年生を対象に貝のテラコッタ指導をしていただいた。登坂氏は海の生物をテーマに制作をされ、公立小学校でも教鞭を執られていた。子ども達にとってだけでなく、美術教師にとっても大変勉強になり研修の機会となった。貝の採集の校外学習の後にまとめた自分の標本を見ながらテラコッタ粘土で貝を制作した。自分で採集してきたので実感をもって制作できるばかりでなく、登坂先生から「こんな貝があったらいいな?と想像して面白い貝をつくろう!」と課題が出たので、

2. 小さな展覧会

6月24日体育館にて島田紘一呂氏の作品を鑑賞した。島田氏は木彫家で猫の作品ばかり12点をお持ちくださり、触らせていただきながら鑑賞会を行った。大きな塊から制作するお話を伺い子ども達は興味津々だった。「今にも飛んできそう!」「どうなっているの?」「本物みたい!」と歓声がある。この展覧会は初等部だけでなく幼児生活団の児童や保護者の皆様にも声をかけ、楽しい時間を共に過ごした。動物の作品を制作中の初等部の

子ども達にとってはタイムリーな展覧会でねらい通り制作意欲を掻き立てられた。こんなに近くでしかも触らせていただきながらの鑑賞会に終始興奮気味の様子だった。



触っているところ

解説を伺っているところ

3. 6年生による「けやき」インスタレーション

初等部の象徴である「けやき」を体育館の中にも造ろうと6年生が半年かけて取り組む。春には例年どおりスケッチをして準備しておき、2学期に入ってからチームを組んで作業を続けた。チーム作りは、全体リーダーを選出してからクラスを立体班と平面班の二つに分け、それぞれ班リーダーを決めた。けやきの樹の部分は、ハニカムボードという建築材のダンボールを用い立体に組んで立ち上げた。立ち上げると樹だけで3～4mにはなる。ボードの表面には和紙を貼りアクリル絵の具で着色した。まず立体班は制作に入る前にダンボールで模型を作り、ボードの組み方やカットの仕方など制作工程をよく考え計画をたてた。実際は会場の体育館での現場作業となる。一方平面班は幅1.3m、長さ5mのビニールに葉っぱの部分を描く。4枚描いて天井から吊り下げる。具象にするかデザイン化して描くか検討し、樹の部分と繋がるようにしようと相談した。両方の班が7割位制作したところで、一度合わせてみて、みんなでディスカッションをした。「新緑のスケッチから始まっているが今のけやきを表現したい」「樹の色に対して葉っぱの色をもっと重厚にした方がよい」指導者からももう一度「けやきが自分達にとってどう大切なのかよく考えよう」との指摘もあった。再度立体班平面班に分かれて仕上げをした。吊り下げの作業は、保護者の父親チームに手伝っていただいた。全体リーダー、各班リーダーがよく働きクラスをまとめていた。初等部では合作はよく行いが、

今回のように自分達主導で役割分担をして進行していくのは、クラス中の結束無しには成し得ない。リーダーは献身的に雑用をこなし全体を把握して声かけをする。その声かけにみんなが協力をする。協力しながらどうしたらよくなっていくか前向きに知恵を出し合い高揚していく。さすが最上級学年の6年生らしく、全長高さ7～8mの大作に負けないくらいの気持ちが込められ、みんなが挑戦してよかったと達成感を感じることができた。

III. 初等部の美術紹介の映像製作

初等部の美術を紹介する映像を会期に合わせて制作した。広報的にも活用したいと考え、ドキュメンタリー映画監督の山田徹氏に撮影を依頼した。山田氏は初等部の卒業生で第3回グリーンイメージ国際環境映像祭大賞を受賞し活躍が期待される若い監督だ。美術展に向かって制作していく子ども達を撮影して、作品と共に会場で披露した。映像で紹介することで、制作過程だけでなくその作品が生まれてくるバックグラウンドが見え、初等部美術を理解していただくことができたと感じている。

IV. 主な作品紹介

(1) 自然ブースから

自然ブースの作品は、四季折々の自然、自分達で育てた作物など、豊かな環境を生かしたテーマが特長であり、それら全てがモチーフとなっている。普段から親しんでいるこの環境は、子ども達の観察の目を育み、匂い、感触、色彩など本物に触れているからこそ自由な表現は生まれてくる。

【新緑の樹木 4年生合作/鳥の子紙・水彩・墨汁】毎年新緑の季節には外に出て樹木や風景の絵を描く。これは3～4人での合作。まず大きな紙(190×120cm)を外に持ち出し新緑の色を水彩で塗る。初等部では透明水彩絵の具を使っている。小さい時から色に対して敏感になって欲しいという願いから使っている。春らしくみずみずしい新緑色の表現には最適だ。翌週その上に墨汁で樹木を一気に描いた。こんなに大きな紙をしかも合作を外でするのは初めての試みだった。集中してよく取り組んだ。

【葉っぱ 1年生/ボール紙・アクリル板】

一人一枚好きな葉っぱを校内から拾ってくる。それをよく見ながら大きな葉っぱを作る。ボール紙にはクレパスを塗りこみ、アクリル板には色紙を貼って葉っぱの色や葉脈を表現する。

【草の工作 2年生/ダンボール・ペンキ】

はじめに校内を散歩して草を抜いてくる。まず草をスケッチする。そのスケッチをもとにダンボールを切り抜き大きな草を作る。ダンボールを組み立て立体にする。アクリル絵の具で色を塗る。

【虫の工作 1年生/木片・箱】

まず校内で虫取りをする。バッタ、カマキリ、コオロギ等自分の教材は自分で確保する。虫取りをするのは初めての子もいるが上級生になればあっという間に捕まえられるようになる。その虫を見ながら工作をする。小さい箱や木片をベースにして、足や触角はアルミ線やストローなどを使った。

【里芋デッサン 4年生/画用紙・コンテ】

畑から収穫してきたばかりの里芋を描く。畑作り、草取り、水遣りと半年かけて育ててきた。天候にも恵まれて今年は66キロも収穫でき豊作だった。半裁の画用紙にコンテでデッサンした。紙のサイズが大きかったこと、コンテで描いたことで描写が力強く表現できた。何より自分達の里芋だという気持ちがこのデッサンの迫りに拍車をかけた。今回の美術展のチラシのデザインにも起用された。近代美術館学芸員の方からも高い評価を頂いたことは子ども達の自信にもなった。



第31回美術工芸展チラシ

(2) 動物ブースから

【動物園スケッチ】

例年は1、2年生だけが動物園へスケッチに行き作

品展開しているが、美術展の年度は、5月の全校遠足を動物園スケッチに変えている。今回は、横浜ゾラシア動物園に行き、低、中、高の学年毎に分かれてスケッチをしてきた。スケッチブックとクレパスを持って広い園内を1・2年生の低学年は全員一緒に進んでいった。初めてのスケッチで目の前にいる動物に目を輝かせて手を動かしていた。5・6年生の高学年は、エリア内を自由行動して描きたい動物をしっかりと描いてきた。クレパスを塗りこむことでその動物の特長や形態を捉える観察力とデッサン力はさすがである。3・4年生の中学年は、塗りこみは足りないが勢いのある線で直感的に特徴を捉えて描くことができ、中学年のパワーあふれるスケッチとなっていた。帰ってからスケッチは昼食時間食堂で見せ合い、講師大村先生から講評していただく。その後の授業ではそのスケッチをもとに各学年作品へと展開していった。

【動物墨絵 1年/鳥の子紙・墨汁】

スケッチを見ながら墨汁だけで大きく描く。動物園での印象を元気に描けるように画材を選択する。実際に見てきたからこそ描ける1年生らしい表現となった。

【動物の行進 2年生合作/ポスターカラー】

この合作はお誕生日会の装飾である。毎月行われるお誕生日会の時、食堂の壁面を美術作品で飾る。合作の勉強の機会として初等部美術の代表的な制作である。初等部の生活と直結した大切な取り組みとなっている。動物園から帰ってすぐ授業をとり、動物を大きく描く。ポスターカラーでしっかり塗りこむ。背景は森の中を動物が歩いているイメージで全紙に大きく描き、全員分を横に長く繋げた。動物を切り抜き、背景の上に貼る。

美術展告知の広報に雑誌 tocotoco 掲載の際に起用された。



雑誌掲載/美術展広告

【うさぎ 3年生/コンテ】

動物園スケッチばかりでなく自分たちが飼育している動物を描くことも多い。毎日世話をしているからこそ、その動物の匂いや感触や骨格やなど自然に観察ができています。美工室に3年生が飼育しているうさぎを連れてきてデッサンをした。色の紙にコンテで塗りこみながら、形態を表現していた。

【動物木片コラージュ 4年生/バルサ材】

4年生が動物園スケッチをもとに工作したレリーフ。スケッチをデザイン化してパズルのように細分化した下絵を描く。カラーボードの上に、着色したバルサ板を下絵のように貼っていく。具象のスケッチをデザイン化して展開する作業は、4年生の課題として適している。もう一つ最適なのはパズルのようにコラージュしていくのは根気がいることである。楽しみながらすることで集中力を育む課題である。

【動物の立体 4年生合作/ダンボール箱・色紙】

色々なサイズや形のダンボール箱を見立てて組み合わせ、動物を立体に作る。3~4人で1体作った。ヒョウ、オカピ、アカカワイノシシ、ライオン、鳥の5体。この工作のねらいは、ただダンボール箱を積み重ねるのではなく、その動物らしさや動きを表す工夫と必ず自立させる、の2点だった。合作なので協力は必須である。パワー全開な4年生のクラスとして全力で取り組み見ごたえのある動物達が完成した。

(3) 生活ブースから

学校生活の中で行事や宿泊学習・校外学習は、子ども達の心を揺さぶる学びである。その事柄をテーマに表現に繋げる。美術指導者も遠足や校外学習・宿泊学習に同行して、その体験を共有する。共有することで、子ども達の素直な表現を引き出したいと考えている。

【ポニーレリーフ 5年生/銅版】

5年生は宿泊学習で蓼科のポニー牧場に出かける。牧場ではポニーの世話をして乗馬の練習もする。馬小屋の清掃やえさやり、毛並みをブラッシング、ポニーに座ってゆられた感覚、どれも貴重な経験。顔のスケッチもしてきて学校に戻ってからポニーの顔を表現した。銅版は裏からたがねでたたいて

立体感をだす。たたくのは大変だが色々な形のたがねやたたき方で変化をつけ表現する。たたき上げるまでには時間がかかるので根気が必要となるが、たたいているうちに楽しくなりどんどん制作に引き込まれていく。仕上げに、むとうはつぷの薄め液を塗り、表面を金たわしでこすって出来上がり。通常授業としては大作だが、高学年の工作の取り組みとして大変貴重な勉強の機会となった。

【ポニー 5年生合作/板材・ペンキ】

ポニー牧場でのスケッチを、直線で表すため簡略化して構成しデザイン画を起こす。板材を使って外に展示することを考慮して、ポニーを実物大位に作ることにする。はじめにヒノキ棒で模型を作り設計図を書いてから、実際の板材の長さと必要数を計算する。板材をのこぎりで切ってからペンキを塗り、レリーフ状に釘で打ち付けていく。最後に耳やひずめなどポイントに銅板を貼った。校舎の壁面に止めつけ、まるでポニーが走っているように展示することができた。

【遠足 多色木版画 5年】

彫刻刀の扱いの勉強は4年生から始まり、5年6年と積み重ねて学んでいく。木版画の表現方法も段階をつけて取り組んでいく。5年生の多色木版画は、遠足をテーマに70%位彫れたところで一度印刷をする。今回は黄色で印刷をした。その後彫り進め全部彫り上がったなら、他色で重ねて印刷をする。今回は赤か緑色で印刷をした。重ねて印刷をすることで複雑になり表現の幅が広がる。

【体操会 2年生/雲龍紙・墨汁・水彩】

10月には学園全体で体操会を開催する。自由学園ではデンマーク体操を行っており、初等部の子ども達も体操を発表する。その時の印象を描いた。雲龍紙に墨汁で描き、裏から水彩で着色した。

【冬の学校 4年生/雲龍紙・墨汁・水彩】

4年生は宿泊学習で1月に冬の黒姫へ行く。雪の中で過ごし、思う存分雪遊びをしてくる。その時の絵を1~2人で描いた。雲龍紙に墨汁で描き水彩で裏から着色する。雪の色は再度表からも塗り足し表現した。

【学園長 2年生/画用紙・クレパス・水彩】

3学期の最後には担任の先生やクラスメート等お世話になった親しい人をモデルに人物描写に取り組む。この年で退任される矢野前学園長に美工室

へお越し頂いて2年生が描く。緊張しながらも嬉しそうに描き進める。退任の際にはコピーを額に入れてプレゼントした。

(4) デザインブースから
デザインの勉強は、約束の中でどう表現できるか、その段取りをきちんとできどうまとめられるか等課題は豊富だが、子ども達の好きな取り組みだ。身近な物をモチーフにして取り組むことが多い。子ども達の色彩の組み合わせや柔軟な感覚には驚かされる。デザインの勉強を兼ねてお誕生日会のカードも制作する。

【冬の木々のシルエット 5年生/水彩】

はじめに四角の組み合わせで色を構成して塗っておく。樹木の形を切り抜きそれを型紙にして色のの上に置き、その型紙の上から白色を塗る。樹木の形がシルエットのように残り、下の色構成がうき上がって効果的に表現される。

【色面デザイン 4年生/水彩・色紙】

水彩を除去して模様をつけるレジストテクニックで色紙をはじめに作っておく。台紙の上に、自分で作っておいた色紙と既成の色紙と両方を使って幾何学模様貼り込んでいく。色合いと形の組み合わせをどう表現するか工夫する。

【手のデザイン 3年生/紙】

カッターの勉強の課題。白い画用紙に手の形と指紋を見ながら描く。指紋をカッターで切り抜くか指紋を残して切り抜く。切り抜いたら色の台紙に貼る。

【動物の貼り絵 1年生/画用紙・クレパス】

クレパスぼかしをして色紙を作っておく。その色紙を使って動物を貼り紙する。

初等部ではクレヨンではなくクレパスを使っている。クレパスは画面上で色が重なり表現の幅が広がる。クレパスぼかしは、塗ってはティッシュでこすることを繰り返して作る。世界に一つしかないきれいな色紙を作ろうと取り組む。その色紙を使うことで貼り紙の表現が広がる。



お誕生日カード

【スプーン人形 1年生/プラスチックスプーン】
プラスチックスプーンを顔に見立て貼り紙をする。

初等部オリジナル課題の一つ。家族や友だち等親しい人を表現して微笑ましく1年生に最適な課題。

V. 美術展を終えて

美術展に向かって準備している時に、全校で「美術」についてどう思うかのアンケートを実施した。初等部では「美術をするとどんないいことがありますか?」という問いかけをしてみる。全学年で2人だけ「つまらない」との回答。これも正直な気持ちだと受け止めている。その他大半は好印象の回答が返ってきた。素直に「楽しい」という低学年から更に楽しくなって「気持ちよい」とか「すっきりする」との中学年。高学年になると「自分を表現すること」「素になれること」「上手い下手ではなく気持ちを表現すること」と深く理解してくれるようになる。そして美術展終了後、再度感想を書いてもらった。たくさんの作品の声を聞いてきて欲しいと声かけをしていたので、初等部や自分の作品だけでなく女子部男子部など他の部の作品もよく観ることができたようだ。女子部の作品からは優しい声が、男子部の作品からは勇ましい声が、初等部の自分達の作品からはいつもの元気な声が聞こえたとの感想を述べた。けやきのインスタレーションに取り組んだ6年生は、色々苦労したけど制作してよかったと振り返っていた。また5・6年生は会場内に立って案内をしたので、お客様方からお褒めの言葉を頂き、客観的に自分達の学びを振り返ることもできた。確実に子ども達の心の中には美術展の印象が残り、たくさん感じる事ができた展覧会になったのではないかと思う。

VI. 終わりに

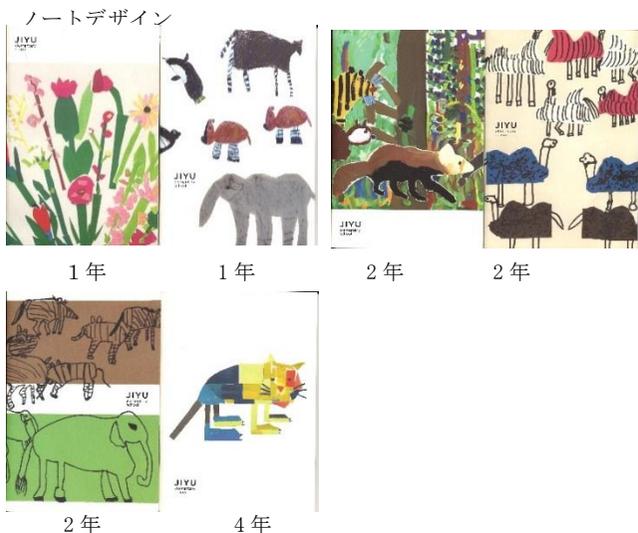
美術の授業が削減される傾向にある風潮に比べ、自由学園では大切にされている美術の時間。それは初等部も同様である。初等部の教育の柱には生活があり、表現することが生活であるといえる。動植物や自然にふれたり、仲間と共に生活をしていく中で、その生活の意味を造形活動で認識していくのだと実感する。生きることが詰まったこの環境の中で実感をもって制作できることが本物の芸術教育であり、子ども達の感性を育てていくと思うのである。4年に一度開催される美術展は、美術教育の尊さを感じられる大切な機会となって

いる。初等部の子ども達は自由で、五感をフル活動して制作していく。もっと活発に表現できるように、指導者の私達も教材研究をして指導力を深めていきたいと痛感した。

最後に美術展成功の要因には、保護者のボランティア活動の働きがあることを述べておきたい。教師だけでは展示準備や会場設営の作業の手が回らない。中高生以上なら生徒の力主導で行うことができるが、初等部の場合木工作业やジュータン敷きの力仕事をはじめ、掲示するための諸作業は大人の手を要する。そこでボランティアを保護者に呼びかけたところ、延べ160人の協力があった。全生徒と同数の協力があったことになる。準備期間は1ヶ月半に及んだ。中でも木工班の精鋭父親チームが誕生し、休日をボランティアに費やしてくださいました。会場設営を職業としていらっしゃる方や建築関係の方、DIYが趣味の方等心強い面々が揃った。体育館を仕切るパーティション製作の他、6年生のけやきの作品を天井から吊る作業、その他現場作業等次々とチームワークよくこなしてくださいました。母親チームもロール紙を繋いだり作品を貼ったりと毎日少しでもと覗いてくださったり、何回もレポートして参加してくださいしたり、本当にたくさんの協力があった。保護者の力に初等部の教育が支えられていることを心から感謝した。この活動は子ども達にも伝わり、5年生の中に木工チームが誕生した。また今回は終了後の方附けも協力していただいた。子ども達を育てる教師の輪に保護者が加わり、更に大きな輪となって広がったことを心強く感じた。本当にありがとうございました。

【子ども達の作品によるノート製作】

子ども達の作品を表紙にしてノートを製作した。1～5年生の6種類の作品をデザインして製作した。今回の美術展の心に残る記念品となった。このノートは会場で作品掲示と共に販売した。



保護者ボランティア紙貼り



保護者ボランティア木枠づくり



父親の精鋭木工チーム

【自然ブース】



上：1年 葉っぱ 下：2年 草



1年 虫



5年 風景画



上：4年 里芋 下：3年 さつまいも



会場風景



4年 新緑樹木

【動物ブース】



4年 合作



上: 6年 下: 1年



1年 墨絵



3年 うさぎ



4年 木端コラージュ



2年 動物の行進



制作風景

【デザインブース】



左:3年中:1年 右:2年 手



5年 冬の木々のシルエット



5年 合作



1年 ゆらゆら人形



会場風景



展示風景



4年 色面デザイン

【生活ブース】



5年 多色木版画



5年 ポニー



4年 冬の学校



5年 ポニー



2年 学園長



3年 体操会



制作風景

【けやき】



制作風景



展示風景

【動物園スケッチ】

